

5. 「かわまちづくり」の効果と 課題に関する基礎的研究

河川・海岸グループ
研究員 阿部 充

■ H21年創設

ふるさとの川整備事業

桜づつみモデル事業

地域交流拠点「水辺プラザ」整備事業

■ 約7年経過

■ 全国で157地区 (H28年3月時点)

→ 現状、効果、課題の把握

→ 今後の支援制度

本日の話

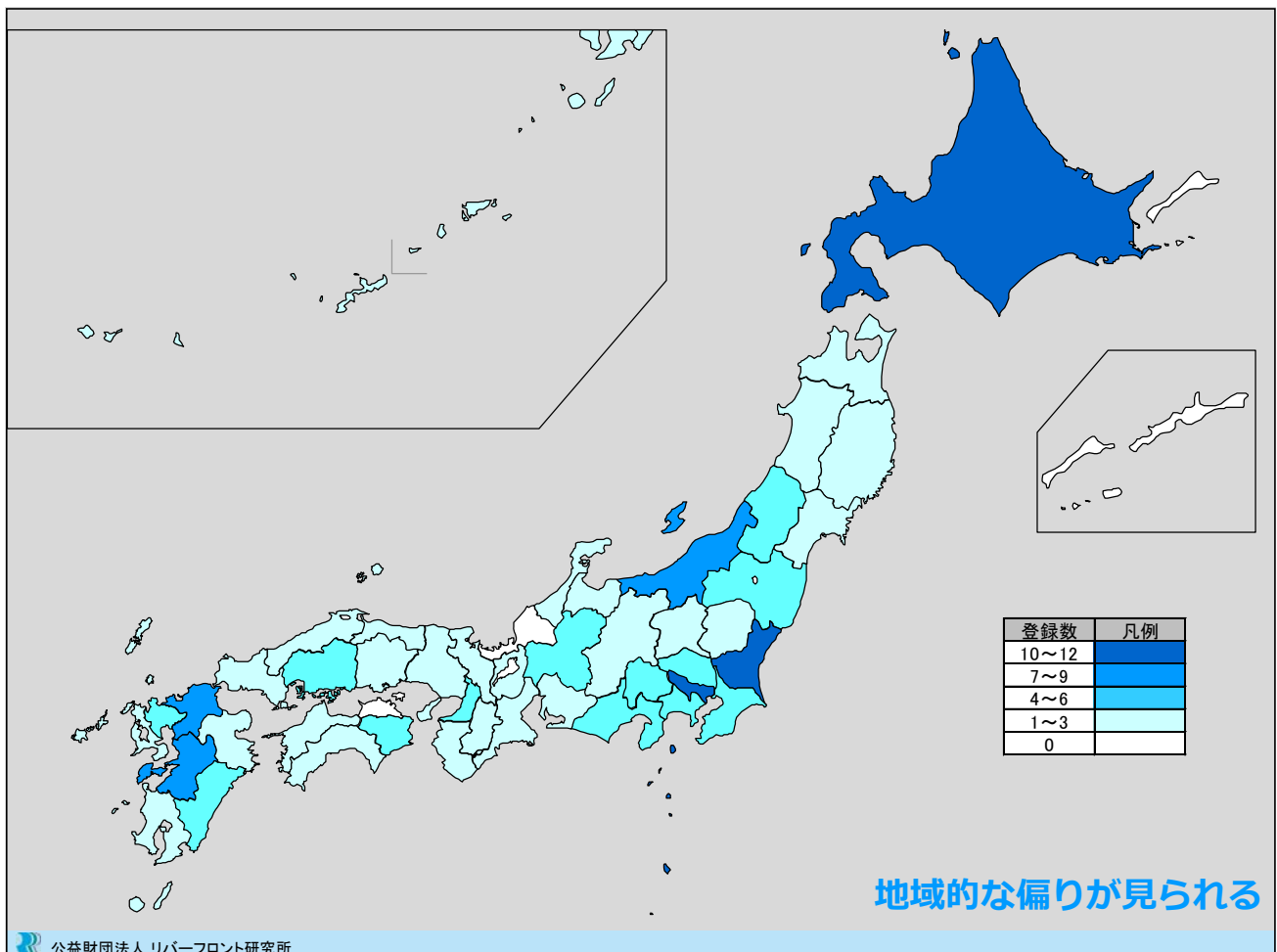
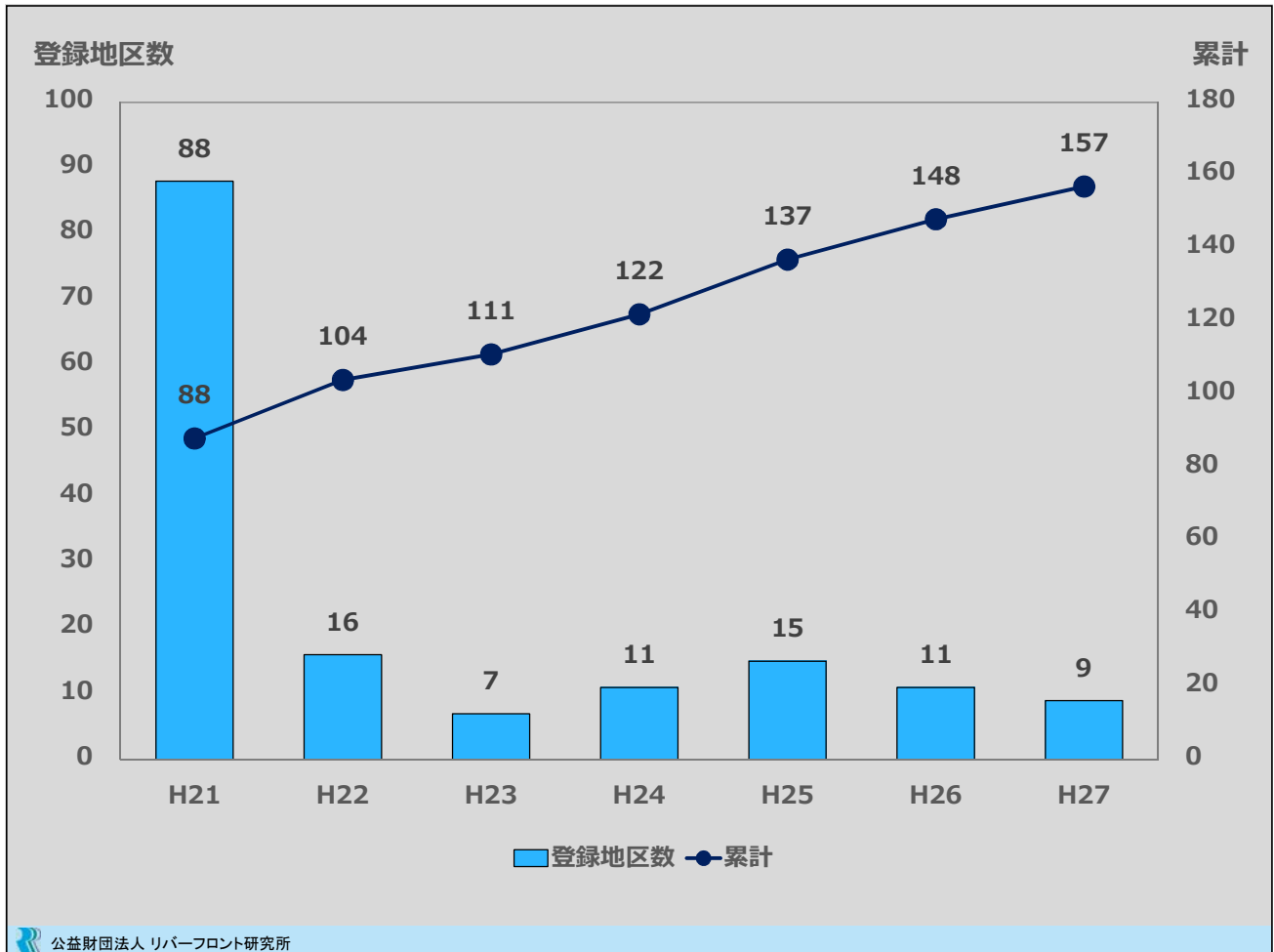
1. 「かわまちづくり」の現状
2. 「かわまちづくり」の波及効果
3. 「かわまちづくり」の意識調査

アンケート概要

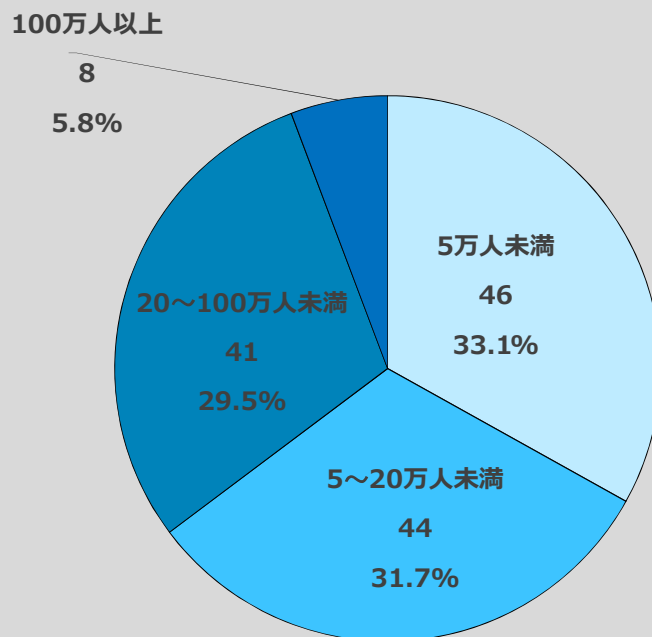
項目	概要
調査対象	支援制度登録地区（148地区）の実施主体（河川管理者、地方自治体）
調査期間	H27年12月7日～H28年1月31日
回答数	139地区（回答率：94%）
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 計画・事業の進捗状況・ 地元自治体情報（人口、世帯数等）・ 対象河川の特長（川幅、横断形状等）・ 事業区間周辺の人口・ 事業区間周辺の現在の土地利用・ 事業区間周辺の地価（路線価）・ 事業区間周辺にある関連施設等の状況・ 整備内容・ 活動・イベント時の利用状況・ 利活用の全体的な傾向・ かわまちづくりの整備目的（主・従）と目標達成評価・ かわまちづくり全体の課題

1. 「かわまちづくり」の現状

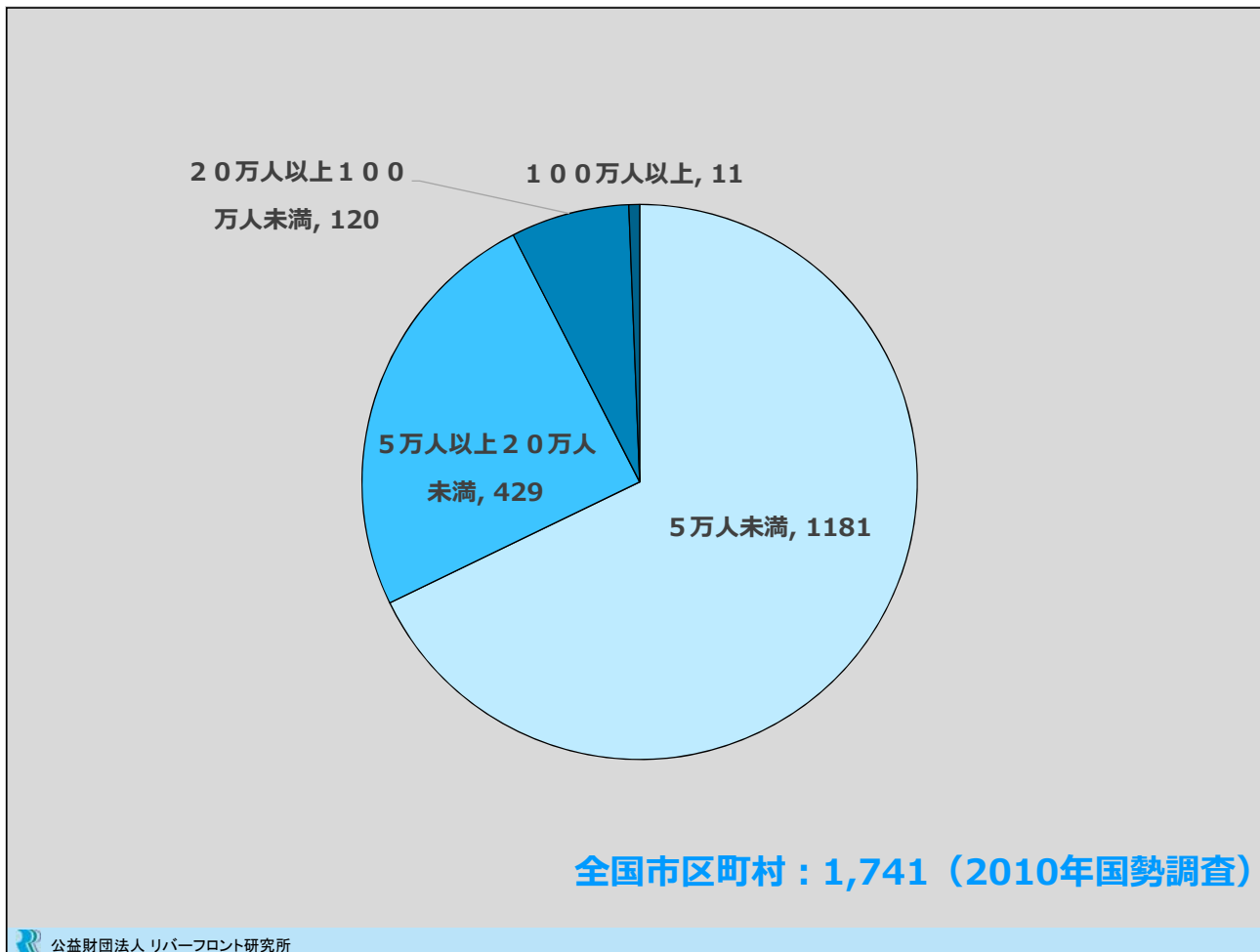
どれくらいの数登録されている？



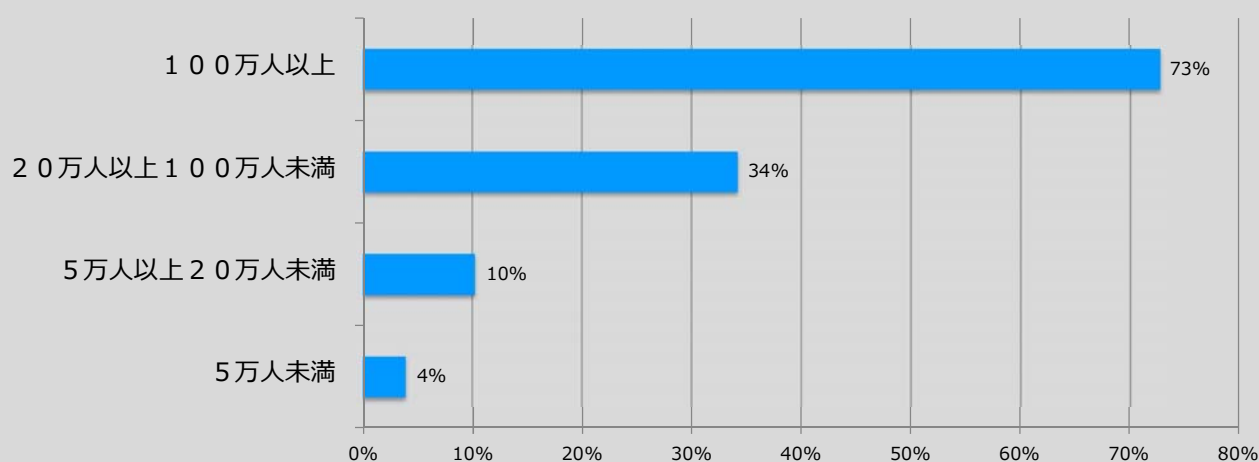
登録地区の市町村の人口規模？



かわまちづくり地区数 : 139 (アンケート)

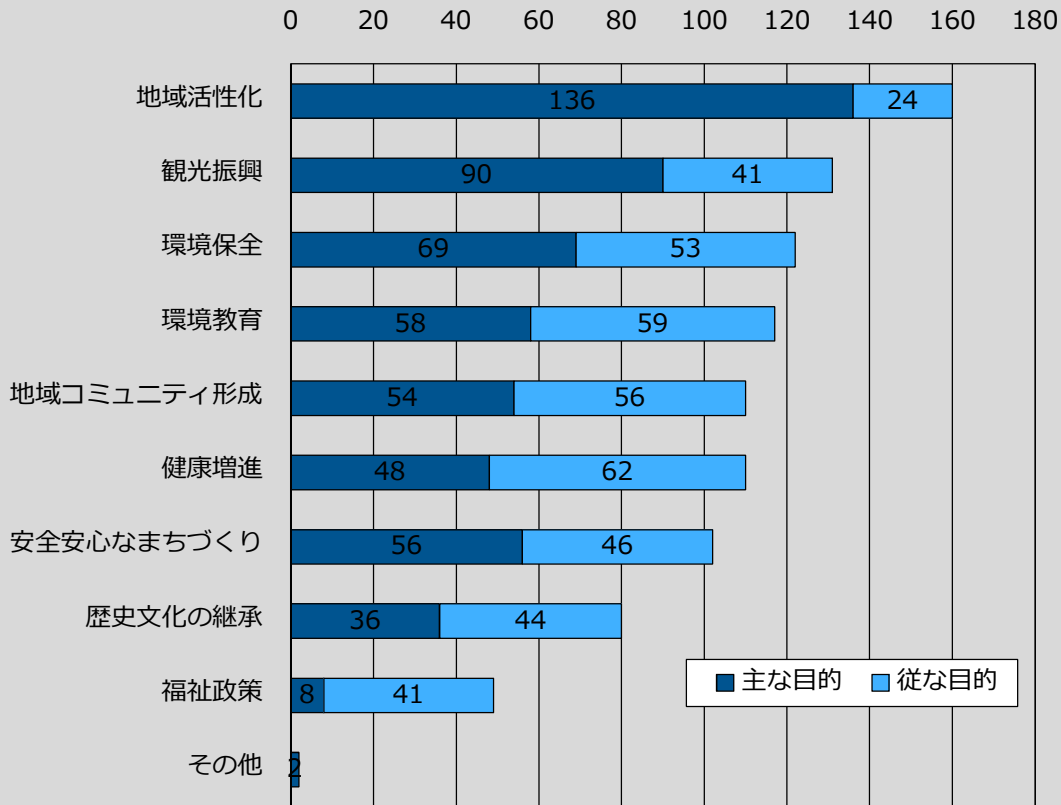


かわまちづくり地区数の全国的な比較



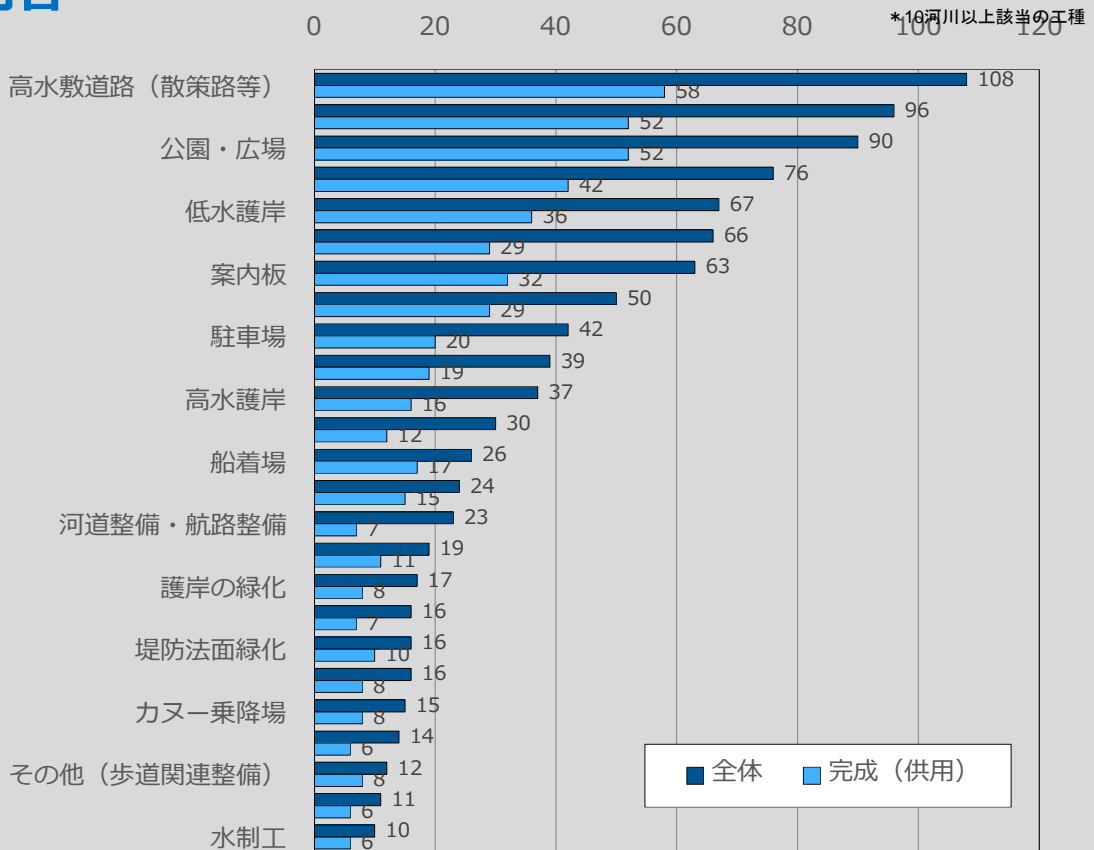
人口規模の小さい市町村の登録は少ない

整備目的の設定状況



公益財団法人 リバーフロント研究所

整備内容



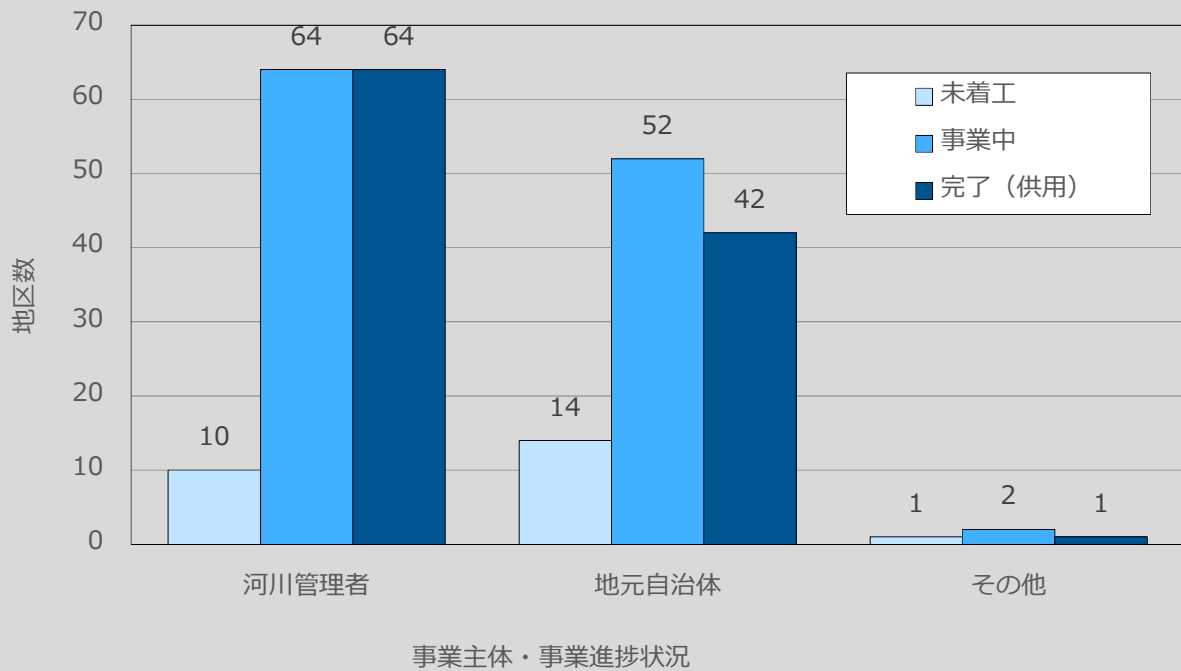
* 回答河川数:171

公益財団法人 リバーフロント研究所

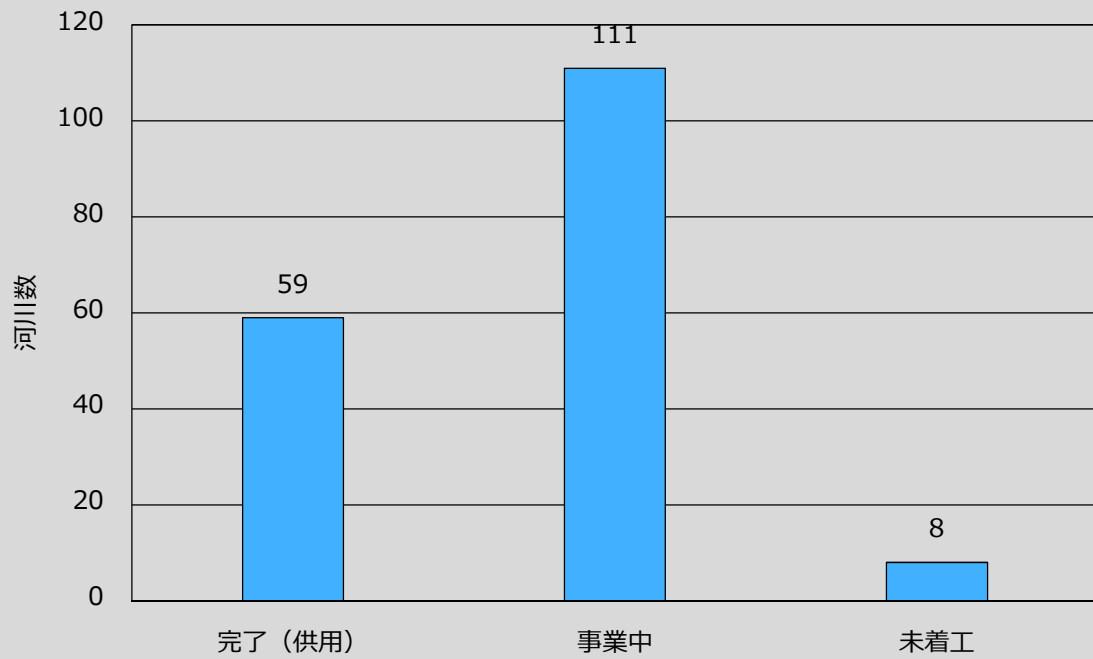
マニアックな整備内容（回答数1～2）

- 船通し水路
- 閘門
- 水中観察施設
- 養浜
- マリーナ
- 艇庫
- 住宅整備

事業主体別の進捗状況



進捗状況



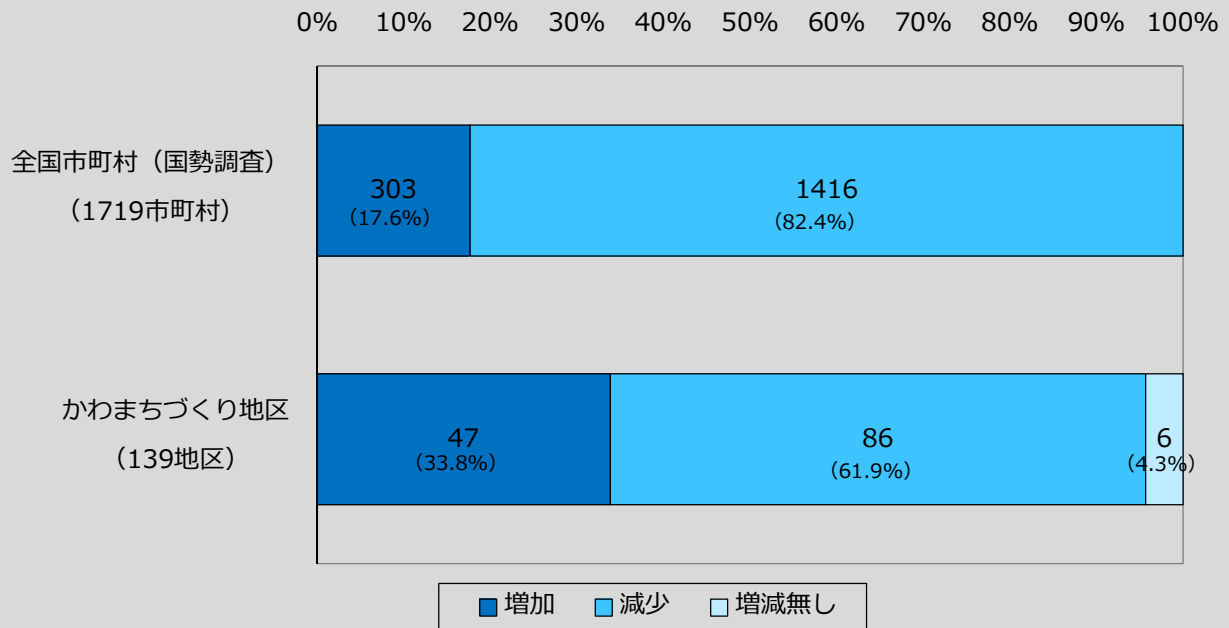
2. 「かわまちづくり」の波及効果

「かわまちづくり」の効果は人口や地価に波及するのか？

人口データ

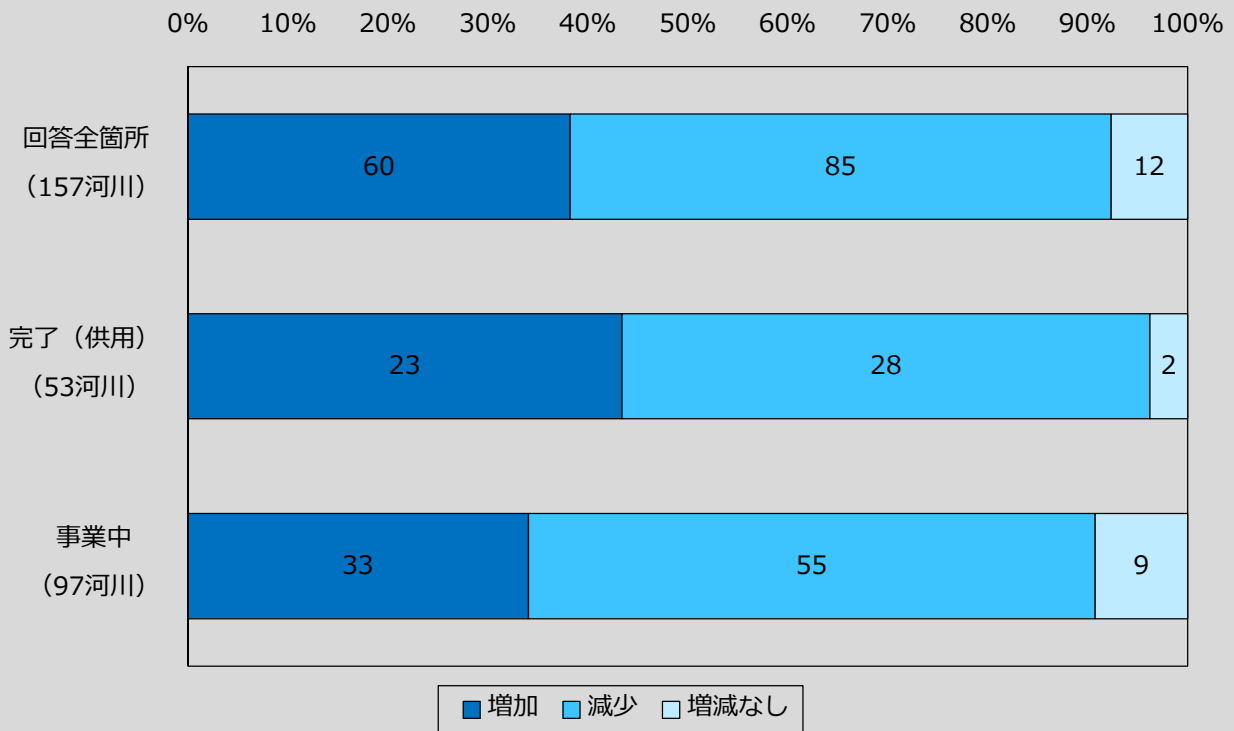
- 対象地区の市町村の人口と、事業区間周辺の町丁目の人口
- 「事業着手年又は登録時」と「現時点（平成27年）」との2時点の人口について収集
- 2時点の比較により、増加、減少、増減なしに区分
- 複数の市町村や町丁目にまたがる場合は、合計値を使用

市町村単位の増減地区数の割合（全国との比較）



「かわまちづくり」対象の方が人口が減少している地区の割合は小さい

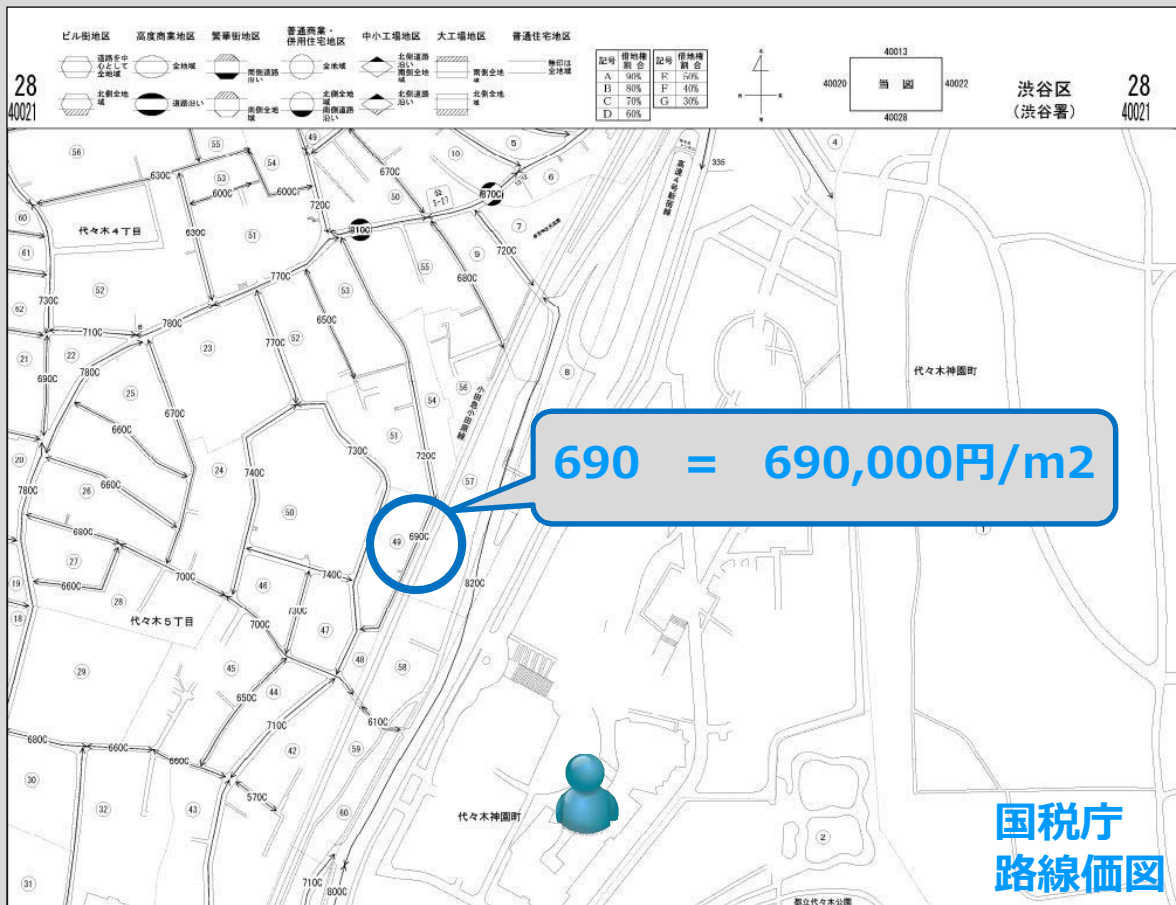
事業箇所周辺の人口の増減



- ・ 事業箇所周辺の方が市町村よりも減少地区数の割合は小さい
- ・ 完了箇所の方が減少地区数の割合は小さい

地価データ

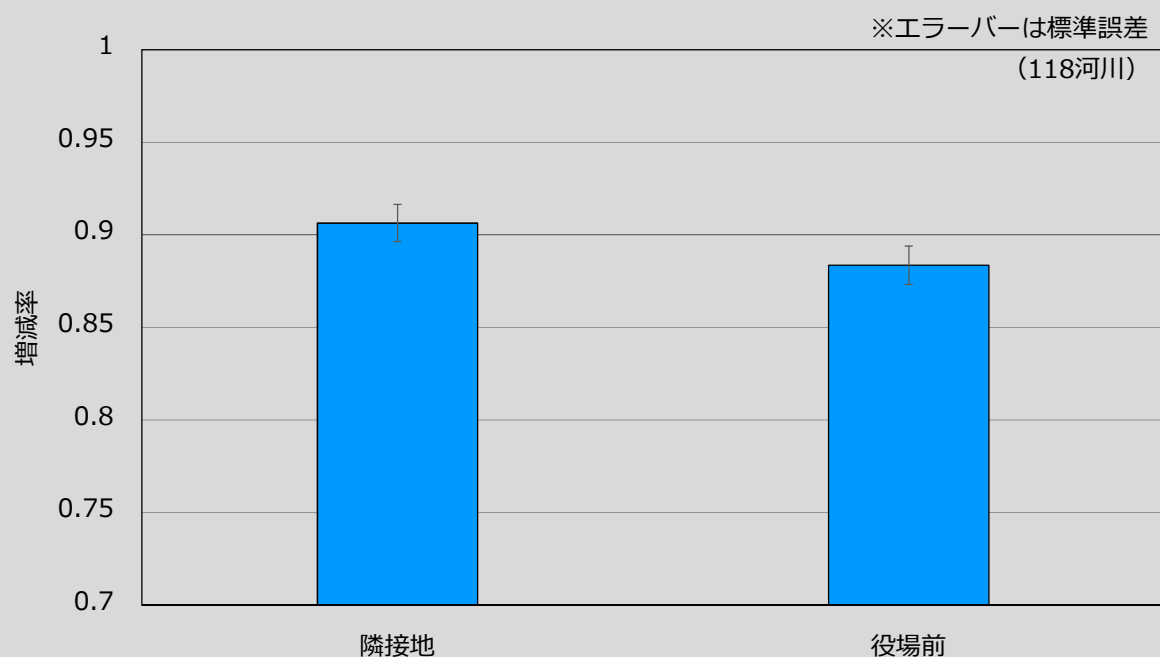
種類	調査主体	目的	公表時期	対象地点数
公示地価	国土交通省	土地取引の指標	毎年3月下旬	23,380地点
基準地価	都道府県	土地取引の指標	毎年9月下旬	21,731地点
路線価	国税庁	相続税、贈与税、固定資産税の算定基準	毎年7月下旬	約33万4千地点 (路線価の基礎となる調査地点)



路線価データ

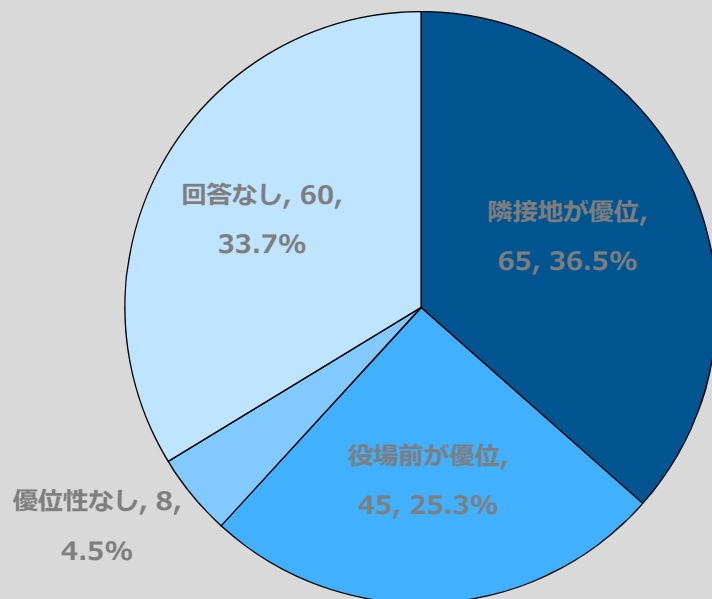
- まちの中心となる役場（市役所）前と河川の隣接地の値
- 事業着手時又は登録時と、現時点（平成27年）との2時点
- 着手時又は登録時に対する平成27年の路線価の割合を「増減率」と定義
- 隣接地の増減率から役場前の増減率を減算し、値が正の場合は「隣接地が優位」、負の場合は「役場前が優位」、ゼロの場合は「優位性なし」と区分

隣接地と役場前の路線価増減率平均値の比較



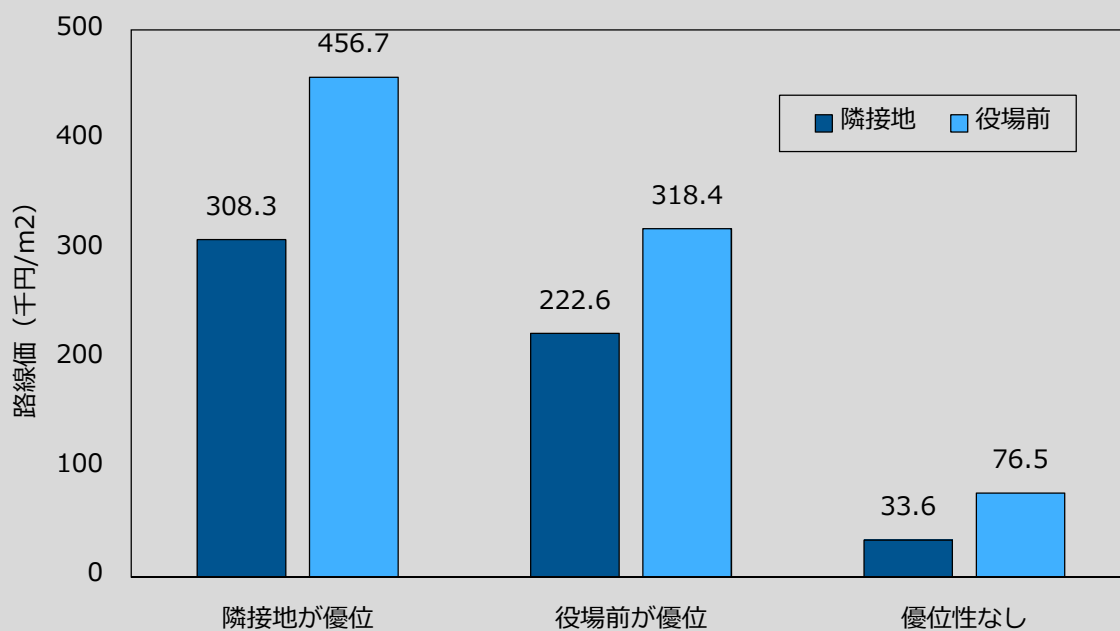
- 隣接地の方が役場前の増減率よりも下落幅が低い

路線価の区分ごとの箇所数の割合



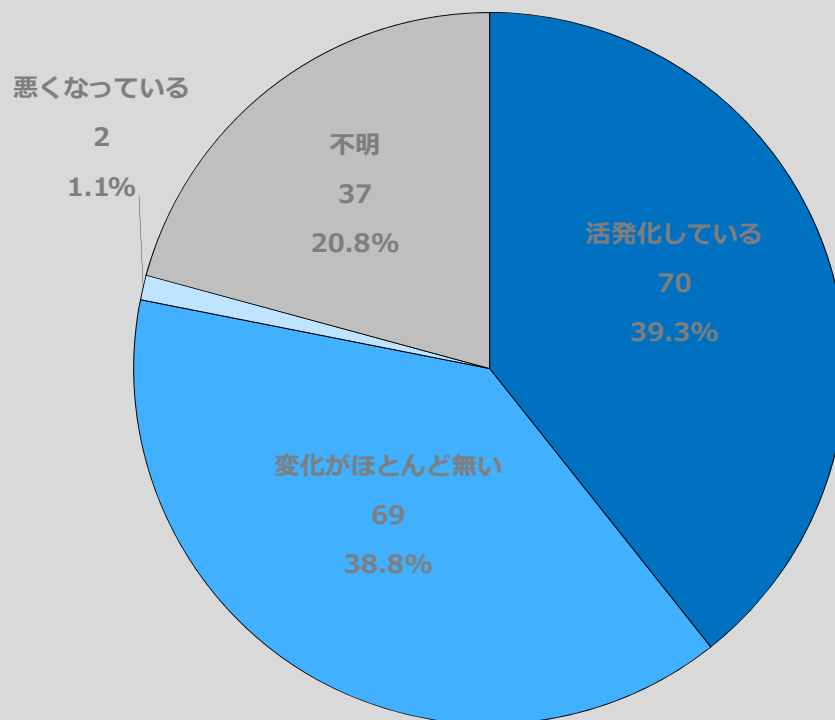
- 隣接地が優位な箇所の方が役場前が優位な箇所よりも多い。
- まち側の中心部と比較し、かわまちづくり計画箇所の方が地価の下落が抑えられている箇所が多い？

路線価の平均値 (H27年)

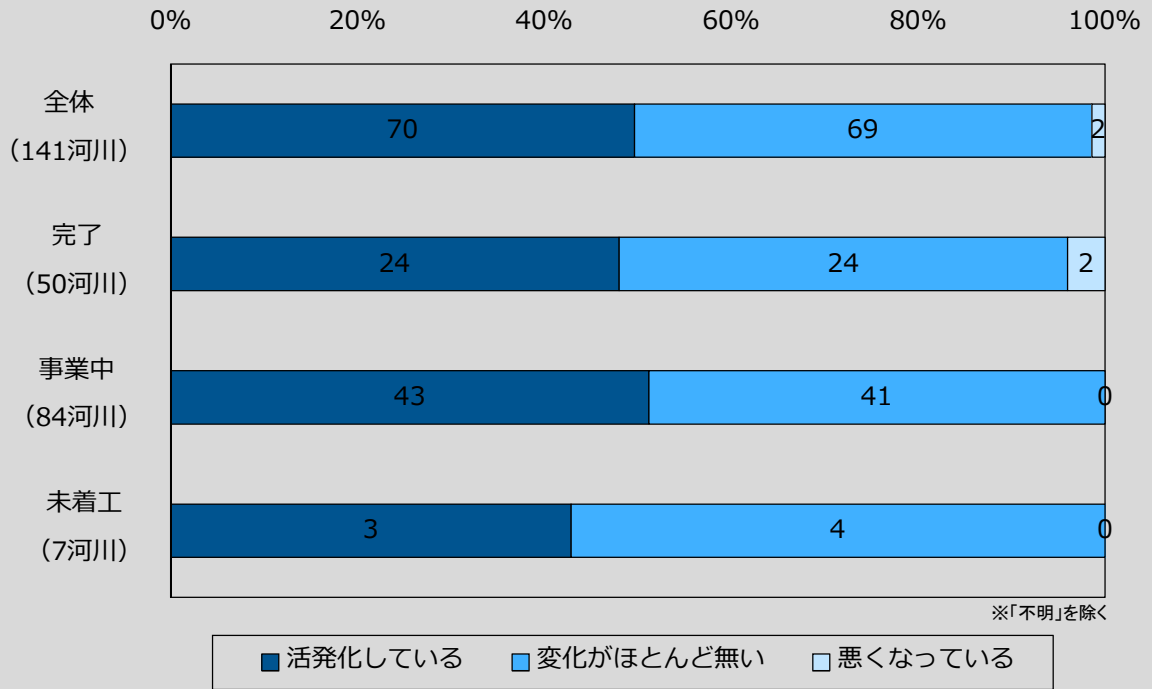


3. 「かわまちづくり」の意識調査

利活用の全体的な傾向

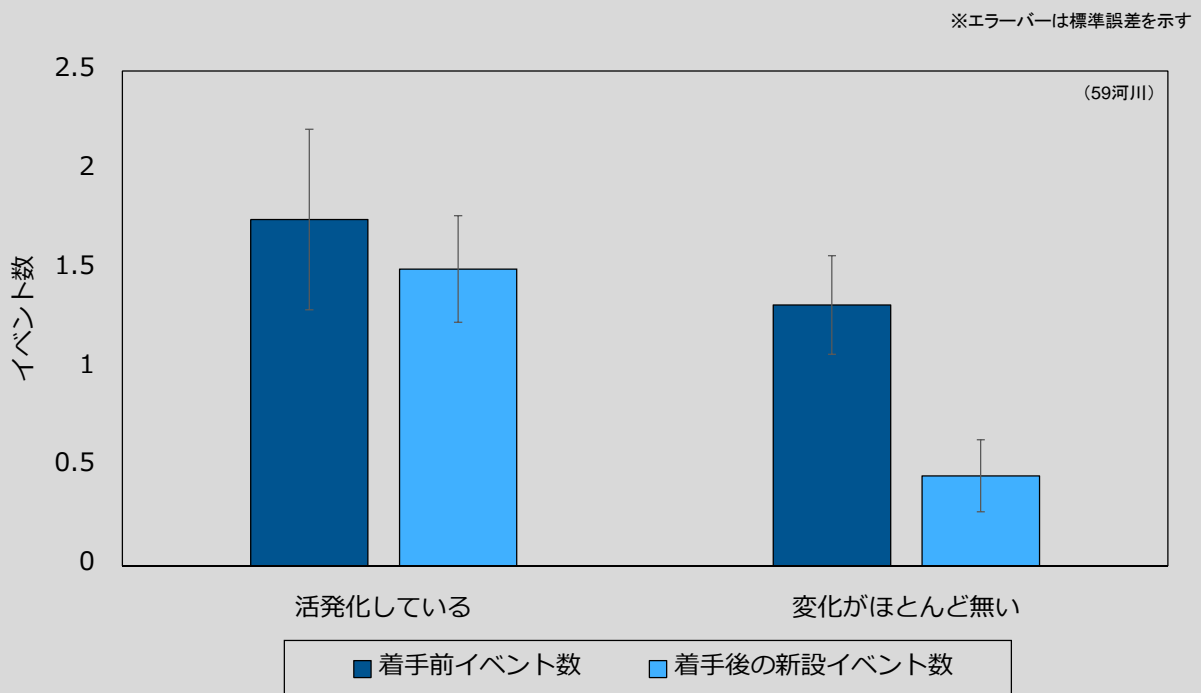


進捗状況別の利活用の傾向



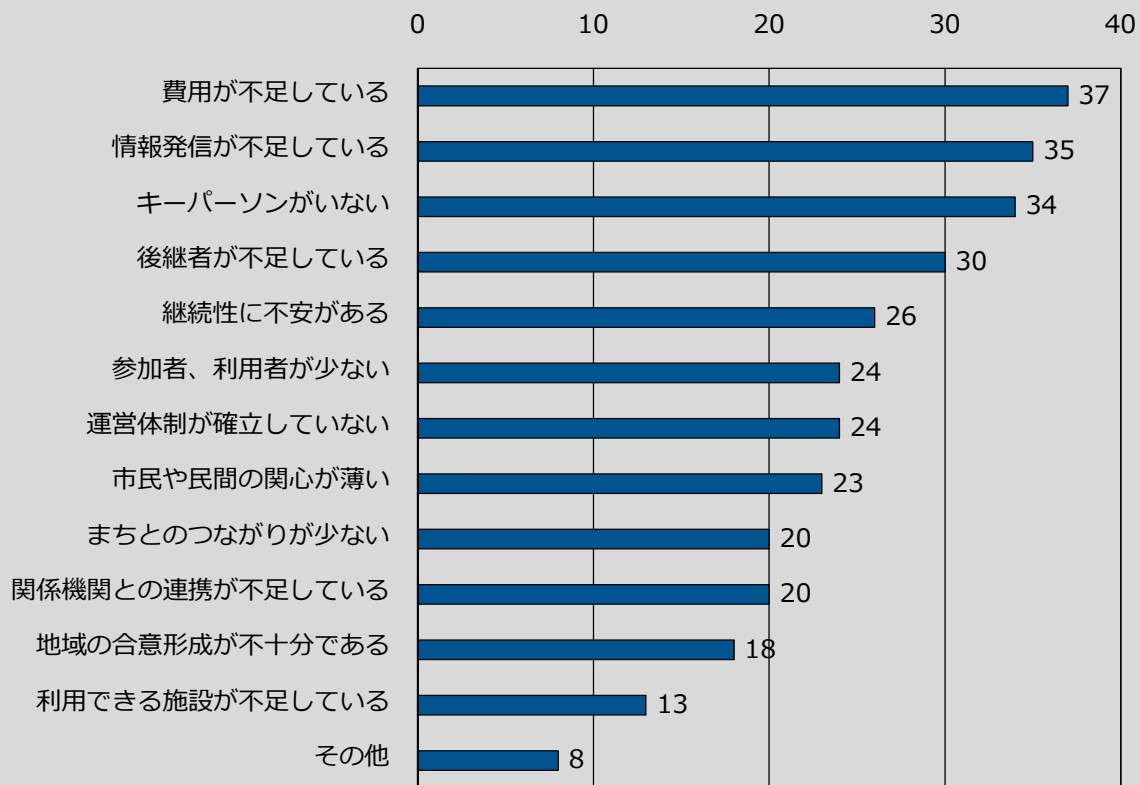
・事業の進捗に関わらず、「活発化している」「変化なし」が半数ずつ

事業完了箇所における事業着手前後のイベント数比較



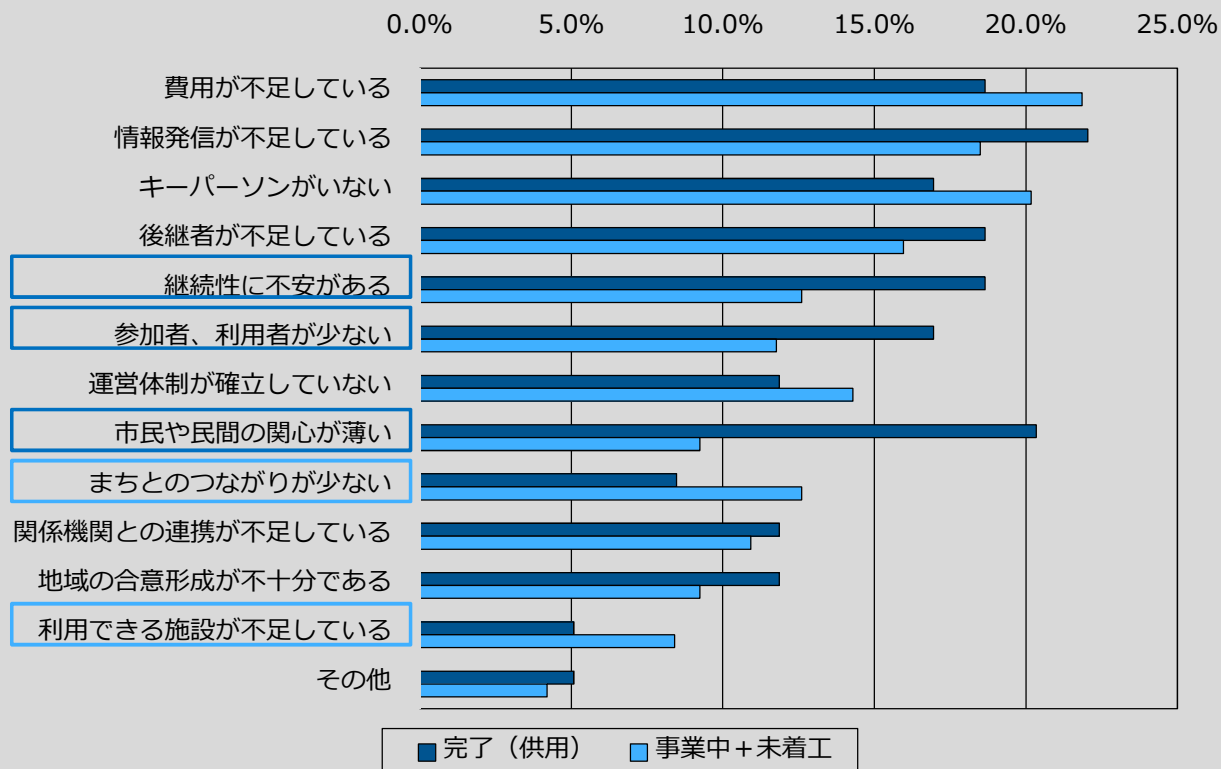
・事業着手後に新規にイベントが開催されているところでは「活発化している」

課題の回答状況



(河川数:178)

事業の進捗と課題の関係



- ・「完了(供用)」箇所が高いのは、「市民や民間の関心が薄い」「継続性に不安がある」「参加者、利用者が少ない」
- ・「未着工及び事業中」箇所が高いのは「まちとのつながりが少ない」「利用できる施設が不足している」など
- ・事業の進捗段階によって、異なる課題がある

まとめ

1. 「かわまちづくり」の現状

- 地域的な偏り、都市規模の小さい箇所では未登録箇所多い
→ 「かわまちづくり」のススメ

2. 「かわまちづくり」の波及効果

- 人口、地価について、全国平均やまち側と比較してプラスの影響がある可能性示唆
→ 引き続き詳細な検証は必要
→ 他の地域でも参考にし易いようにとりまとめ、効果的に紹介するなどして未登録箇所の需要を喚起する

3. 「かわまちづくり」の意識調査

- 進捗段階により異なる課題
→ 準則改訂、支援制度改正に伴う民間事業者の積極参加、クラウドファンディング、エリアマネジメント、ミズベリング・プロジェクトなど、多様な手法
→ 「かわまちづくり」への適用可能性などを検証し、フォロー